

NOTICIAS DE S. PAULO

(Primeiro Diário Nipponico Publicado no Brasil)

Sa. Feira, 18 de Janeiro de 1938

(1) No. 1,398

Início do

ano

1938

結歸の議會前御

日本の眞意を解せぬ 支那國民政府を否認

（東京十六日）政府は十六日正午帝國政府半後の對支方針に關し左の如く聲明し我が公正なる態度を中外に宣明した

帝國政府聲明

帝國政府は南

那國民政府の

京攻略後尙支

那國民政府の

立を要望して十六午後十時

新支那の進切望

新支那の大業に

新支那の進切望

新支那の大業に

支那魔末断軍

全軍に反戦氣運濃化
脱走・叛乱事件續出す

蔣自ら出馬断壓に大童

敗殘兵の匪賊化にも手を焼く

(上海十七日) 確報による。臘海線一帯に集中中の前線軍隊督戰に、出馬したと報ぜられる蔣介石は、日下徐州にて日本軍反撃の積極的作戦に懸命の奔走を續けてゐる。謂はれるが同方面一帯集結の地方軍閥中には幹部の死物狂ひの督戰にも拘らず引きつゝ敗戦に既に戦争を廻避して集團的な脱走、或は叛乱續出し全く軍に反戦的氣運が濃厚となり内部的分裂は漸く露骨となつて現はれ蔣介石は之ら破壊分子に對する防遏に寧日なき有様である。

(上海十七日) 通報介石は長抗戰の作戦手段としてギリヤ戦術を採用、日本軍の後方撲滅に出る旨を發表したが諸情報を総合するに新戰術と銘打つた此の遊擊戦術は名のみで、其實態は敗残兵の集團が匪賊化したもので、部落や縣城を襲撃して掠奪暴行の限りを盡し、殊に安徽、江蘇兩省は其の被害最も甚しく、國民政府當路者も此敗残兵匪賊化の問題に關しては相當手を焼いて居り、國民政府は之が政府の弱悪化を露す重大要素であるだけに苦慮の色が逐次濃厚となつてゐる。

北支の地震に案外

北宋の高塔の謎を解く

北宋の高塔の謎を解く

研究所大東地震研究時太郎氏

左翼内閣出現か
ブルム氏を主班に
ボンネ藏相組閣を断念

(東京十七日) 北支は世界最大の山全体が崩れ動いたといふ記録から、その位だから、穴居生活だつた

地盤にあり立つて古来幾度の災厄を経たものである。

”東京大會を”あくまで支持

米國オリンピック委員會言明

”東京大會を”あくまで支持

